

「新しい土木を学ぶところ」を目指して

山口県立岩国工業高等学校 / 都市工学科



船戸 康正
YASUMASA FUNATO
岩国工業高等学校
都市工学科長

昭和十四年に岩国商工学校として創設。現在、機械科、電気科、材料技術科、化学工業科、都市工学科があります。
都市工学科は、従来の造るだけ为目的にした建設ではなく、その周辺の環境と調和を考え、快適な都市づくりに貢献できる技術者を育てることを目的としています。
その意味を含めて、科名を名づけたと都市工学科長の船戸康正先生は説明されました。「新しい形の土木科を作りたい。これからの土木系学科のモデルケースにしたい。新設の科だから設備も授業内容も新しいものばかり。とにかく、先端的なものを教えていきたいと思つている。そのために『都市計画』『環境工学』などを授業に取り入



測量実習

れています。もちろん我々、教師もしつかり勉強が必要です。」とのこと。しかし、全て新しいということとは教科書も資料もない。新聞などを教材として使うことも多いとのこと。コンピューターも活用し、測量データを取り込み図面を制作するなどの技術も習得します。こうした新しい形は今後の建設土木系学科の基本となり、「土木」へのマイナスイメージをなくすことも目的のひとつです。
また、生徒達が自信と自覚を持つて建設業に進むことができるように、体験実習や資格の習得にも力を入れています。職場体験は「インターンシップ制度」で企業の現場を実体験することが出来ます。「インターンシップ制度」とは、

地域産業の現場に在学中の生徒が自分の学習や希望する進路などに関連した就業体験をすることです。地元企業の協力により、現場で実務を現職の皆さんに指導をしてもらいながら体験します。実際の業務の知識や技術に触れることで、学習意欲が増し、就業選択能力や仕事に対する見方、考え方が育ちます。実社会の大変さも知ることが出来ます。資格などでもできる

実習室での授業



コンピューターを使う授業も

だけ取得させます。そのためには授業での技術の向上を学び取ることが基本だと船戸先生は言われます。資格を持つことは本人の自覚・自信へと繋がります。
また、平成十年度に開催された中国地区の高校土木系学科に在籍

建設業への就職希望者は多いが、企業からの引き合いはまだまだです。学校としては「まず地元で」という気持ちでいるので、地元企業からの募集を強く願っています。それによって、地域への人材定着率が高くなることを期待できます。
「現在の土木建築分野に、若く、新しい技術を持つて、即戦力となる人材を育てていくことが、この学科の使命だと考えています。」と船戸先生の力強い言葉でした。



校舎全景

橋の上でみんなそろって

角島大橋を見学 いずれは自分達もこんな仕事を

セグメント工場を見学



形の巨大ブロックの製造を見学しました。このセグメントを繋ぎ合わせて橋をつくります。昼食後、いよいよ橋を歩いて渡ることにになりました。現在全長一七八〇メートルの五分の四が出来上がっているこの橋は、海

今回、環境土木科の一年生三十九名は、三人の先生に引率され、平成十二年完成予定の角島大橋の建設現場を見学しました。角島は豊北町にあり、本土から一・六キロ離れた島ですが、今までは本土との連絡は渡船だけで、荒天時や緊急時には、大変不自由な思いをしています。
現場では、事業概要、工法などの説明の後、セグメントという箱

面からの高さが他の橋に比べると低いので、まるで海の上を歩いているようです。
県立田布施農業高等学校、環境土木科は今年二年目で、女生徒も二年生に三名、一年生に八名が入学してきました。同行された橋本敏次先生のお話によると、この科の目的は「生活環境を考えた土木ができる人材を育てる」ことだそうです。次第に男女差別のない職業になりつつあるので、女性も増えてくるだろうとのこと。こうした現場見学・研修は、現実の仕事というものを実感し、具体的な進路の決定の資料になることを期待しているとのことでした。
見学中、浜田まほろさん、上田由美さんの二人の女生徒にも話を聞いてみました。「構造説明は少し難しかった。海の上を歩いたのは気持ちよかったです。最近、測量実習がおもしろくなってきて、将来この仕事に就いてみたいですね。」と頼もしい答えでした。
人間性豊かな実行力のある人材を育成し、知・徳・体の調和のとれた教育が基本の田布施農業高等学校は、未来の建設業界の有望なホープをたくさん輩出してくれるものと期待できます。



校舎全景 (本校)

女性が、もっとたくさん ふえてほしいです!

井上 香織さん

KAORI INOUE ●シマダ株式会社(山口市)・建設事業部・住まいづくり推進室勤務
●昭和51年生、徳山市出身、徳山工業高等専門学校・土木建築工学科卒業●A型、蟹座

女性の少ない建設業。その中であってキラリ輝く女性を紹介します。井上香織さん。男性に交じって現場でガンバっています。

私は、楽天的で人見知りしない性格だから、友達が多いと思います。でも、活発ではなかったんで、周囲は建設の仕事に就くとは思ってなかったでしょう。自分でも思いもなかったんですけど。今、現場施工管理の仕事をしています。

仕事はつらいですよ。暑い、寒い、朝早い、夜遅い。でも

完成の時の達成感は、何ものにも変えがたいものです。一時、社内の仕事をしていました。人手不足で、また出ることになったのですが、不思議と現場にいる方が気持ちよくて、もしかしたら自分に向いているのかも、最近思っています。

仕事は出来る限りやりたいのですが、女性には結婚、出産、育児のた



めに時間的、体力的に無理な部分もあると思います。でも、今後は人材不足となり、どうしても女性進出は必要になるでしょう。そうなれば社会も企業も女性のための配慮を考えざるを得なくなると思います。やりたいと考えている女性も多いみたいですね。私もこれから入ってくる女性に、今までの経験で助言や手助けができればと考えています。男性達も見かけと違って優しい人達ばかりですよ。そして女性が多くなれば、もっと優しいイメージになると思っています。「来たれ、女性よ!」ですね。

女性が少ない建設業。その中であってキラリ輝く女性を紹介します。井上香織さん。男性に交じって現場でガンバっています。